

第1回全日本水上スキー選手権大会チーム対抗戦の開催を心からお慶び申し上げます。

水上スキーの魅力は何と云っても、風を肌で感じ、広大な水面を自由に滑走する爽快感です。豊かな水をたたえる琵琶湖を思う存分楽しんでください。

日本最大の湖である琵琶湖をお預かりする本県は、雄大で豊かな自然や四季折々の景観、伝統的な街並みなど、多くの魅力に溢れています。出場者の皆様におかれましては、この機会に湖国・滋賀の魅力に触れていただきますとともに、大会に参加される多くの選手の皆様との親睦も深めていただき、本県を思い出の地として心に刻んでいただければ幸いです。

本県におきましても、令和7年に開催を控える国民スポーツ大会や全国障害者スポーツ大会等を契機として、誰もがより一層身近にスポーツを楽しむことのできる環境づくり、健康・体力の増進と競技力の向上に取り組み、スポーツと文化で滋賀、そして日本を盛り上げていこうと力を入れているところです。

スポーツの「する」「みる」「支える」、それぞれの関わり方を広げていき、人と社会の健康につなげ、滋賀をスポーツで元気にしてまいりたいと考えております。引き続き皆様のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

選手の皆様におかれましては、怪我にはくれぐれも留意し、記録だけではなく、記憶にも残る素晴らしい大会になりますことを願っております。

結びに、本大会の開催に御尽力いただきました関係の皆様に感謝を申し上げますとともに、本大会の成功と更なる発展を心からお祈り申し上げます。

滋賀県知事 三日月 大造



第1回全日本水上スキー選手権大会チーム対抗戦が、草津市において盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げますとともに、全国からお集まりいただいた選手の皆様に、草津市民を代表いたしまして、心から歓迎申し上げます。

水上スキーは、水上という不安定なフィールドにより求められる繊細さと時速50km以上のスピードからくるダイナミックさを併せ持つスポーツであり、「みる」スポーツとしても人気を博しております。

今年から開催されます本大会は、チーム対抗戦となり、年齢による区分がなく、ジュニアからシニアまで幅広い御年齢の方々が一堂に会し、競い合うことは今までになかった新たな魅力であると思います。本大会ならではの白熱した素晴らしい試合を通じて、更なる高みへと切磋琢磨していただくとともに、今まで以上の多くの方との交流を深められますことを期待申し上げます。

また、会場近くの烏丸半島には、琵琶湖の生態や歴史を学ぶことができる「琵琶湖博物館」や、一年を通して数多くのスイレンの花を觀賞いただける「水生植物公園みずの森」など多くの観光スポットがございますので、お立ち寄りいただくと幸いです。

結びにあたり、本大会を開催するにあたりまして、多大の御尽力をいただきました関係者の方々に心よりお礼申し上げ、本大会のますますの御発展を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

草津市長 橋川 涉

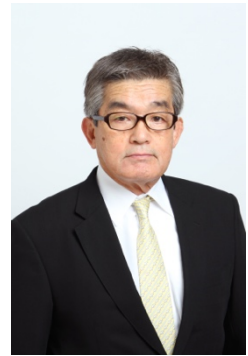


第1回全日本水上スキー選手権チーム対抗戦をこの滋賀県草津市の琵琶湖にて開催されることを大変喜ばしく思います。

水上スキーは水面に立ち、滑るのは一人ですが決して一人でやることは出来ないスポーツです。例年の桂宮杯全日本選手権大会では、表彰式の後、日頃共に練習しているチームの方々と肩を組み、成果を称えあう姿をみることができますが、今回のチーム対抗戦ではその姿が、それぞれの努力と成果が一つに集まり団結し戦う姿がみられるのではないかと思います。チームで戦い競い合うことで刺激し合い今後のやる気につながれば幸いです。また、今大会は大学生チームの参加もいただいています。卒業後の水上スキーをどのように、どんな仲間と続けていくのか、そういったイメージや人脈も広げていただければと思います。

結びに本大会開催にあたっては、お忙しい中ご準備ご協力をいただいた滋賀県、草津市、滋賀県水上スキー連盟、京都府水上スキー連盟、兵庫県水上スキー連盟の皆さま、その他ジャッジの皆さまにはここに重ねて御礼を申し上げます。

日本水上スキー・ウエイクボード連盟会長 本間 徹



第1回全日本水上スキー選手権大会チーム対抗戦を開催させていただくことができました。滋賀県および草津市のみなさま、琵琶湖を拠点にしている滋賀県水上スキー連盟、京都府水上スキー連盟、兵庫県水上スキー連盟のみなさん、および多くの関係者のみなさんのご協力に支えられてここに至りました。心より御礼を申し上げます。また日本スポーツ振興センターの助成を受けて開催していることもご報告しておきます。

全日本水上スキー選手権大会チーム対抗戦は、IWWF（国際水上スキー・ウエイクボード連盟）主催の World Championships を参考に、都道府県連盟および学生連盟に所属するチームで参加して日本一のチームを目指す、新たな大会です。

日本水上スキー・ウエイクボード連盟は、承認団体としてJOCに加盟していますが、JOCの加盟団体のスポーツにおいては個人競技のスポーツ団体の多くが団体対抗戦を取り入れており、近年では男女混合でチームを構成するようになってきています。これはまさにIWWFが取り入れている構成であり、これに倣って我々が団体戦を構築する後押しにもなっています。

ここ琵琶湖では多くの水上スキーヤーが競技を楽しんでおり、日本の中心で利便性が良く、水域の構造が競技の条件に適していることから最初の開催地として選ばせていただきました。

参加されるスキーヤーのみなさんには、日頃の練習の成果を発揮して、自身とチームにとって満足のいくパフォーマンスを追求することを期待しています。みなさん、頑張ってください。

大会組織委員長 坂田 伸一



スポーツ振興基金助成事業

独立行政法人日本スポーツ振興センター

大会役員

大会名誉顧問	三日月大造	滋賀県知事
大会顧問	福永忠克	滋賀県教育長
大会会長	本間徹	日本水上スキー・ウエイクボード連盟会長

競技役員

大会組織委員長	坂田伸一	日本水上スキー・ウエイクボード連盟
大会組織副委員長	大西幹雄	日本水上スキー・ウエイクボード連盟
大会組織副委員長	山口晃史	京都府水上スキー連盟
大会組織委員会	長田まり子	日本水上スキー・ウエイクボード連盟
	後藤晴子	大分県水上スキー連盟
	佐坂潤	全日本学生水上スキー連盟理事長
	三輪久	日本水上スキー・ウエイクボード連盟
チーフジャッジ	正林道彦	京都府水上スキー連盟
ホモロゲーター	大西幹雄	日本水上スキー・ウエイクボード連盟
	立教大学水上スキー部のみなさん	
ドライバー	坂口直樹	日本水上スキー・ウエイクボード連盟
	小澤正男	京都府水上スキー連盟
スコアラージャー	早野秀人	日本水上スキー・ウエイクボード連盟
ジャッジ	後藤晴子、山口晃史、森山佳昭、土屋信太郎、松本喜代美、三船武志、湯前壯登、中村大悟、石橋和樹、高梨朗弘、高見裕大、渡久地翔太	

曳航艇	Ski Nautique 200CB, PCM H6 Direct injection 6.2L,
(3 イベント共通)	12.50 x 15.50, VR4B 1,000 Cup.150
	2016 Zero-off GPS / Tournament speed control system
予備艇	CorrectCraft2010 SkiNautique200, PCM ZR 409 6.0L V-8 409HP
	4Blade 12.5/15.5, Zero off (RevQ)

大会要項

日程	2023年7月14日(金)から7月17日(月・祝)
場所	滋賀県草津市津田江浦(琵琶湖畔)
主催	特定非営利活動法人日本水上スキー・ウエイクボード連盟
主管	特定非営利活動法人日本水上スキー・ウエイクボード連盟大会組織委員会 滋賀県水上スキー連盟、京都府水上スキー連盟、兵庫県水上スキー連盟
後援	滋賀県、滋賀県教育委員会、草津市、草津市教育委員会
競技方法	日本水上スキー・ウエイクボード連盟国内競技規則による
参加資格	日本水上スキー・ウエイクボード連盟国内競技規則に基づく有資格者
競技種目	スラローム、トリック、ジャンプ
運営日程	7月14日(金) 設営、公開練習 7月15日(土) 競技、開会式 7月16日(日) 競技 7月17日(月・祝) 競技、表彰式
クラス	日本水上スキー・ウエイクボード連盟国内競技規則による
表彰	総合換算点の最も高いチームに Team Competition Winner's Cup を進呈 各種目の団体優勝チームも表彰、各種目の個人も上位を表彰

公認	設備、環境、ジャッジから日本記録が認められる公認大会
助成	今大会はスポーツ振興基金の助成を受けて開催
編成	下記を参照
チーム登録	JWWF に登録している団体で、都道府県連盟、都道府県連盟に所属しているクラブチーム、大学を単位とする。
チーム編成	3 種目を通して男女合計 6 名まで。同性は 4 名まで。 3 種目を通して 1 名でも参加できる。 1 種目への 1 名でも参加できる。 リザーブの選手を男女別に 1 名保持できる。
チーム換算点	エントリー数および男女に関わらず、各種目の上位 3 名の合計。 換算点は男女とも男女別に 1 つのクラスで算出。 競技における初速、最高速、台の高さは参加者のクラスに準ずる。これをシニアとジュニアの加点に置き換える。

チーム換算点の注意

- 競技規則に記載されているクラス別の初速、最高速、ジャンプ台の高さ、ジャンプのマイナスメートルの条件をそのまま採用します。各基準において獲得した得点が、換算点の計算対象になります。スラロームとジャンプは以下の例を参考にしてください。
 - オープン男子スラロームは、初速 55k と最高速 58k ですので、4.00/58k/10.75m を記録した場合の換算点対象記録は、46.00 ブイとなります。
 - U-17 男子スラロームは、初速 43k と最高速 58k ですので、2.25/58k/13.00m を記録した場合の換算点対象記録は、50.25 ブイとなります。
 - オープン男子ジャンプは、換算点対象記録は実際の飛距離からマイナス 25m ですので、54.0m の記録は 29.0m になります。
 - 55+男子ジャンプは、換算点対象記録は実際の飛距離からのマイナスはありませんので、34.1m の記録はそのまま 34.1m として換算点の対象記録になります。
- トリックには上記のようなクラス別の条件はありません。獲得した得点がそのまま換算点の対象になります。

複数のエントリー

- 上記の各単位から複数のチームをエントリーできることとします。この場合、各チームに出場に対する優先順を設定いただきます。大会全体で出場人数に余裕のある場合に、優先順の低いチームも出場できることとします。

リザーブ

- 各チームは、男女別に 1 名のリザーブ選手を保持できます。
- リザーブの選手は、エントリー選手との入れ替えの場合のみ出場できます。
- 入れ替えは、イベント開始前の指定時間までに申告が必要です。
- リザーブの選手もエントリー費が必要です。

会場での注意

- 会場内での飲酒および会場内の指定場所以外での喫煙は禁止です。
- ゴミは行政の指示に従って各自で処理をお願いします。
- 熱中症などの対策も各自で注意して行動してください。

保護者の同伴

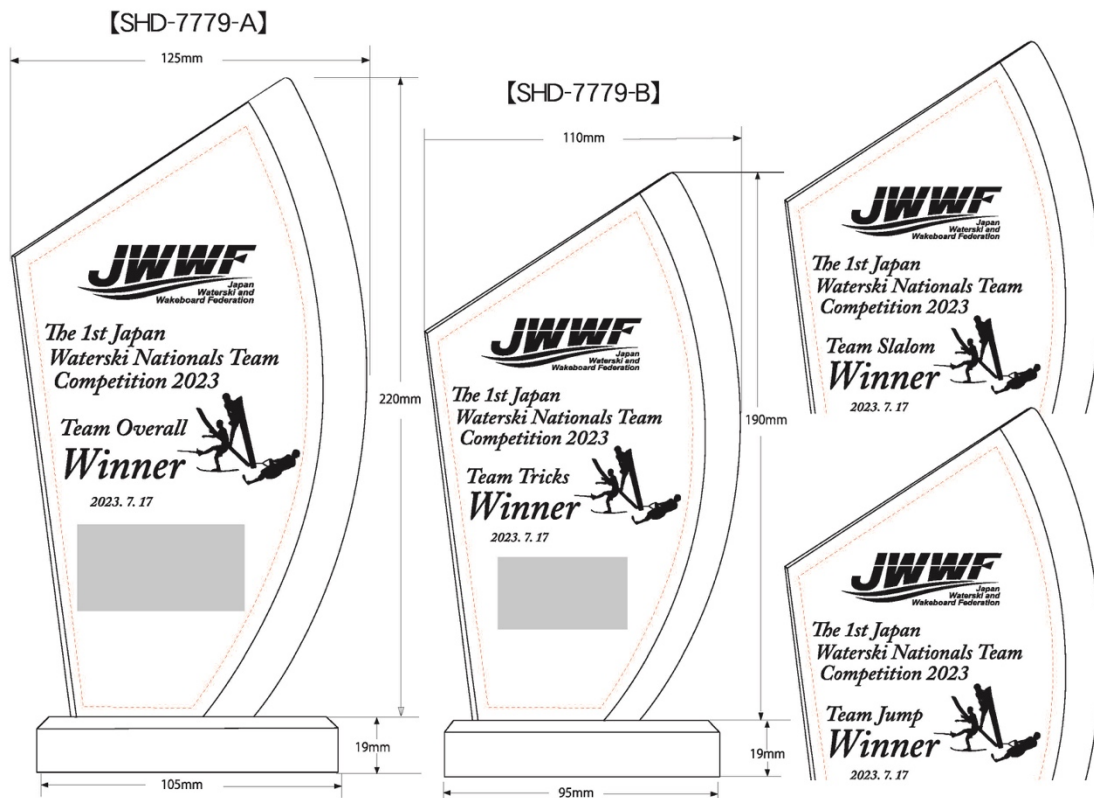
- 17歳以下の方が参加する場合は保護者が同伴するようお願いいたします。病気、および、怪我で病院などへ搬送される場合に保護者の方に付き添いをいただくためです。
- 自身で委任状を用意し取り交わした成人の方の代行でも構いません。事故、怪我、病気などで関連施設へ移動する際には、必ず本人に付き添って、責任を持って対応するようお願いいたします。

公開練習

- 公開練習はリザーブ選手を含む全エントリー選手が有料で参加できます。費用は当日に回収させていただきます。単価は1,000円の予定です。
- 準備の都合と参加希望人数に応じて、練習の内容、参加人数、1人当たりの時間配分などを主催者側で調整させていただきます。準備と設営が優先されることをご了承ください。

運営上の注意点

- 貴重品や手荷物などの盗難や紛失、会場内外での事故などについては、大会組織委員会では責任を負いかねますのでご了承ください。
- 交通、宿泊は参加者各自の責任において手配ください。
- 荷物の宅配など受け取り、発送、とも取り扱いません。ご了承ください。
- 参加選手、役員、関係者の肖像権は、主催者である日本水上スキー・ウエイクボード連盟が留保します。



スキーマーリスト

氏名		チーム		スラローム	トリック	ジャンプ
住田	敏之	耶馬溪アクアパーククラブ	M	55+	55+	55+
杉原	淳己	耶馬溪アクアパーククラブ	M	21+	21+	21+
中村	成	耶馬溪アクアパーククラブ	M	U-17	U-17	U-17
黒田	琉仁	耶馬溪アクアパーククラブ	M	U-17	U-17	U-17
中村	大悟	耶馬溪アクアパーククラブ	M			35+
後藤	晴子	耶馬溪アクアパーククラブ	F	45+	45+	
末安	菜花	耶馬溪アクアパーククラブ	F	U-17	U-17	U-17
大西	幹雄	ブスカ水上スキークラブ	M	55+	55+	55+
森山	佳昭	ブスカ水上スキークラブ	M	45+	45+	45+
早野	秀人	ブスカ水上スキークラブ	M	35+	35+	35+
森山	光美	ブスカ水上スキークラブ	F	45+		
早野	梨恵	ブスカ水上スキークラブ	F	35+	35+	
森山	優羽	ブスカ水上スキークラブ	F	U-21	U-21	U-21
松本	章良	静岡県水上スキー連盟	M	55+	55+	55+
山本	中	静岡県水上スキー連盟	M	45+		
齊藤	英彰	静岡県水上スキー連盟	M	55+	55+	55+
村上	吉人	静岡県水上スキー連盟	M	55+	55+	55+
佐藤	颯汰	日本大学	M	U-21	U-21	U-21
宮澤	月菜	日本大学	F		open	open
福家	菜々美	日本大学	F	open		
松岡	大暉	慶應義塾大学 A	M		U-21	
堀内	皓介	慶應義塾大学 A	M		open	
福永	修吾	慶應義塾大学 A	M	U-21		U-21
岩本	怜央	慶應義塾大学 A	M			open
藤井	茉莉花	慶應義塾大学 A	F	open	open	
遠藤	凜々	慶應義塾大学 A	F			open
中山	雄登	慶應義塾大学 B	M		open	
神津	幸秀	慶應義塾大学 B	M	open		open
宇対瀬	夏壱	慶應義塾大学 B	M	U-21		
福田	伊亜	慶應義塾大学 B	F		open	
和田	渚月	慶應義塾大学 B	F		U-21	
家田	理咲	慶應義塾大学 B	F			U-21
小澤	正男	京都府連盟 A	M	45+	45+	45+
涌井	真之	京都府連盟 A	M	open		open
山中	駿之介	京都府連盟 A	M	open	open	open

山口	晃史	京都府連盟 A	M	55+	55+	55+
山内	萌	京都府連盟 A	F	open		open
尾野	敬三	京都府連盟 B	M	55+		
辻田	義展	京都府連盟 B	M	45+		
小松	誉和	京都府連盟 B	M	35+		
山口	敬史	京都府連盟 B	M	U-14	U-14	
山岸	七海	学習院大学 A	F	open	open	
笠原	美羽	学習院大学 A	F	U-21	U-21	U-21
辰澤	奈緒子	学習院大学 A	F		U-21	U-21
小池	愛梨	学習院大学 A	F		U-21	
田口	星	学習院大学 B	M		open	
竹村	夏海	学習院大学 B	F	open		
常富	優香	学習院大学 B	F			U-21
加藤	倅梅	学習院大学 B	F	U-21	U-21	
吉野	友奏	学習院大学 B	F			U-21
三船	武志	東京パワーボートクラブ	M	55+	55+	
石橋	和樹	東京パワーボートクラブ	M	open	open	open
高梨	朗弘	東京パワーボートクラブ	M		open	
高見	裕大	東京パワーボートクラブ	M	open		
松本	喜代美	東京パワーボートクラブ	F	55+	55+	
入澤	航大	法政大学	M	open		open
菊地	航生	法政大学	M		open	
西森	彩理	法政大学	F		open	open
宮原	夢花	法政大学	F	open	open	
瀬之口	梨々香	法政大学	F	open		
三輪	久	Zing Water Ski Club	M	55+	55+	55+
津田	薫	Zing Water Ski Club	F	55+	55+	
坂口	稿	立教大学	M		U-21	
山崎	友也	立教大学	M		U-21	
渡邊	萌	立教大学	F		open	

クラスの注意

- 21+の初速、最高速、マイナスメーターを希望する場合は、オープンクラスでエントリーしていただき、競技時に申告をいただくことでそのパスにて対応します。